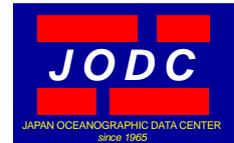


Japan

Oceanographic

Data Center

JP001 – 12 – 2
2012 年 12 月 発行



JODC ニュース

No. 82 December 2012

目 次

- 第 41 回海洋資料交換国内連絡会 P. 1
- 第 9 回政府間海洋学委員会西太平洋小委員会出席報告 P. 3
- 第 10 回NOWPAP/DINRACフォーカルポイント会合出席報告 P. 6
- 第 4 回海洋気候学に関する専門家会合出席報告 P. 7

日本海洋データセンター
(海上保安庁海洋情報部)

第 41 回海洋資料交換国内連絡会

第 41 回の連絡会は平成 24 年 2 月 16 日に国土交通省青海総合庁舎 10 階会議室で開催されました。



会議風景

海洋資料交換国内連絡会は、IOC(ユネスコ政府間海洋学委員会)の推進する IODE(国際海洋データ・情報交換システム)に関する諸課題について報告・検討を行うために 1972 年に日本ユネスコ国内委員会自然科学小委員会海洋分科会の承認を受けて設置されました。事務局は日本海洋データセンター(JODC)が務め、年 1 回開催しています。

会議の概要は以下のとおりです。

【出席機関(順不同)】

内閣官房、文部科学省、環境省、防衛省、国土交通省、気象庁、(独)産業技術総合研究所、(独)海洋研究開発機構、(独)水産総合研究センター、(社)漁業情報サービスセンター、(社)海洋調査協会、(財)環日本海環境協力センター、一般財団法人日本水路協会、東北大学大学院、海上保安庁海洋情報部、日本海洋データセンター

1. 各機関からの活動報告

(1)JODC から、2011 年における海洋データや IOC 刊行物等の受領状況、

- J-DOSS への海洋データのアップロードの状況、J-DOSS や海の相談室からの提供状況について報告があった。
- (2) 気象庁から、web 公開による海洋観測データの公開状況に関し、海洋気象観測船や漂流ブイによる観測データの web 公開状況等の報告があった。
 - (3) 気象庁から、歴史的 XBT データの重要性やアーカイブ状況と問題点について、また、歴史的 XBT データの世界動向に関する報告があった。
 - (4) 海洋研究開発機構から、平成 23 年度の海洋研究開発機構のデータ公開状況について、JODC へのデータ提供状況、海洋研究開発機構のホームページでのデータ公開状況及び海洋研究開発機構内のデータレスキューの実施とその公開に関する報告があった。
 - (5) 水産総合研究センターから、室内型 Video Plankton Recorder (B-VPR)を用いた動物プランクトンデータセットの整備について報告があった。
 - (6) JODC から、昨年 3 月にベルギーにて開催された第 21 回 IODE 会合の概要についての報告があった。
 - (7) JODC から、今年度 9 月に京都大学にて開催された WDS 国際会議の概要について、海洋分野から IODE の活動経緯や WOD の歴史について発表したことや WDS の意義と発展の重要性が再確認されたことについて報告があった。
 - (8) 海洋研究開発機構から、1st Session of the IODE Steering Group for OBIS への参加報告及び J-RON(日本の各地域拠点)の現状に関し、OBIS(Ocean Biogeography Information System)の体制やデータ・システム開発、日本のノード(各地域拠点)の運営状況の報告があった。また、OBIS 事務局の資金難についても話された。

2. その他連絡事項

海洋情報一元化に関する取組として以下の報告があった。

- (1) 海上保安庁から、昨年 12 月に日本財団ビルにおいて開催した「海洋情報一元化に関する国際シンポジウム」の開催報告があった。同シンポジウムでは、海洋の総合的な管理の重要性や海外の海洋先進国の海洋情報に関する取組み状況について話がなされた。
- (2) 内閣官房及び海上保安庁から、海洋情報クリアリングハウスが運用開

始からまもなく2年を迎えるにあたり、運用状況及び所在情報の登録状況について報告があり、利用促進に向けての協力依頼がなされた。

(3)海上保安庁から、海洋情報一元化に関する取組みとして、海上保安庁保有のデータにて構築する海洋政策支援情報ツール(海洋台帳)の整備について紹介があった。

(JODC 桐山 素美亜)

第9回政府間海洋学委員会西太平洋小委員会出席報告



参加者集合写真

2012年5月9日から12日にかけて韓国の釜山で開催された、政府間海洋学委員会西太平洋小委員会(IOC / WESTPAC)第9回会合に出席しました。今回の委員会には、WESTPAC参加国および関係国際機関から63名の参加があり、我が国は東京大学アジア生物資源環境センターの福代康夫教授を団長に、計11名が参加しました。

本委員会は2年に1度開催され、政府間海洋学委員会が西太平洋地域において推進するプロジェクトの進捗評価と新規のプロジェクトの承認などが行われます。JODCに関する活動としては、北東アジア地域海洋観測システム(NEAR-GOOS)、WESTPACのための海洋データ・情報ネットワークプロジェクト(ODINWESTPAC)、西太平洋国際海底地形図(IBCWP)について、それぞれ活動報告と諮問グループ(Advisory Group)による評価が行われました。

なお、WESTPAC 議長 (Zhang Zhanhai 博士) が健康上の理由により欠席になったため、急遽第一副議長でもある福代教授が議長を務めることになりました。

1. 北東アジア地域海洋観測システム (NEAR-GOOS)

NEAR-GOOS は、北東アジア地域の国際的な海洋観測及び情報共有システムの構築を目的としており、WESTPAC 地域の中の4カ国 (日、露、中、韓) が参加して推進するプロジェクトです。

会合では、NEAR-GOOS 議長の Hee-dong Jeong 博士 (韓国) から、日本が運営する地域データベース (リアルタイムは気象庁、遅延モードは海上保安庁) 及び各国のデータベースについて、プロダクトの更新や新規プロダクトの公開等のコンテンツの充実が行われており、多くのユーザーに利用されていることが報告されました。

諮問グループからは、データベースのより効果的な運営や、SEA-GOOS や NOWPAP 等との連携強化に一層取り組むべきであるとの指摘がありました。

2. WESTPAC のための海洋データ・情報ネットワークプロジェクト (ODINWESTPAC)

ODINWESTPAC は、西太平洋地域における海洋情報の流通促進に関するネットワーク形成を目指すものであり、中国 NMDIS の Lin Shaohua 教授がプロジェクトリーダーを務めています。

会合では、ODINWESTPAC のウェブサイト上で、地域の海洋科学データおよび情報提供が進められていること、さらに新しい情報提供サービスとして OVS (ODINWESTPAC Visualization System) の開発が進められていること等が紹介されました。

諮問グループからは、前回会合で示された行動計画案の実施状況報告が未だなされていないことから、中国に対し迅速に報告を提出するようとの指摘がありました。

3. 西太平洋国際海底地形図 (IBCWP)

IBCWP は、統一された仕様の下での、西太平洋地域の海底地形図刊行を目的とするプロジェクトです。しかしながら、政治的に関係国の調整が困難な問題が存在しており、2004 年以降ほとんど進捗がない状況が続いていました。

会合では、プロジェクトを主導する中国から本プロジェクトのさらなる

進捗は難しいことが報告され、水深図作成のための技術や知識の交換などを目的とする作業部会への改組について提案が行われました。

諮問グループの評価としては、長期にわたって活動が停滞していることを踏まえ、海底地形図の刊行を目標とするのではなく、より科学的・技術的な成果を目指す作業部会に改組するべきであるとされた。これを受け、日本も諮問グループの評価に基づいた作業部会への改組に賛成を行いました。

諮問グループの評価が了承されたため、IBCWP はいったん廃止となり、新たな作業部会の設置に向けたプロポーザルが次回の WESTPAC 会合に向けて準備される見込みです。

4. その他

- 議長、副議長の選出について

現役員の任期満了(2期)に伴う役員選挙が行われ、新議長にはタイの Somkiat Khokiattiwong 博士、第一副議長には韓国の Youn-Ho Lee 博士、第二副議長にはベトナムの Vo Si Tuan 博士が選出されました。

- 次回開催時期及び場所について

次回、第10回会合については、2015年の早い時期にプーケット(タイ)で開催の予定です。



WESTPAC 新役員

左から、Youn-Ho Lee 第一副議長(韓国)

Somkiat Khokiattiwong 議長(タイ)

Vo Si Tuan 第二副議長(ベトナム)

(JODC 勢田 明大)

第 10 回 NOWPAP/DINRAC フォーカルポイント会合出席報告



参加者集合写真

2012年5月23～24日に中国北京市で開催された第10回NOWPAP / DINRAC フォーカルポイント会合(DINRAC / FPM10)に参加しましたので、概要を報告します。

本会合は、国連環境計画(UNEP)の北西太平洋地域海行動計画(NOWPAP)に設置された「地域活動センター」の一つである、「データ情報ネットワーク地域活動センター」(DINRAC)の活動について、その評価と次期の作業計画及び予算の立案を行うために開催される定例会合です。

今回の会合は、NOWPAPの予算期間である2011-2012年期の期間中に行われることから、前回、第9回FPMにおいて決定された事業のうち、2011年から開始されたものについてはその進捗報告、2012年から開始される新規の2事業については実施計画の詳細が議論された。

新規に開始される事業のうち、「利用可能な主な海洋環境データに関する年次報告」については、各国の公開可能な海洋環境データの様式(観測項目、時空間分解能等)が異なることから、統一様式での報告書作成は2012年とりまとめ分では実施せず、各国の実情にあった様式でとりまとめ、次年度以降の年次報告で様式の調整を行うことが合意された。

次回会合は、韓国で開催される予定です。

(JODC 勢田 明大)

第4回海洋気候学に関する専門家会合(JCOMM/ETMC4)出席報告



参加者集合写真

2012年11月26～28日にベルギーのオステンドで開催された第4回海洋気候学に関する専門家会合(JCOMM/ETMC4)に参加しましたので、概要を報告します。

1. 背景

UNESCO/IOC(ユネスコ政府間海洋学委員会)は海洋気象分野におけるWMO(世界気象機関)との連携を推進するため、JCOMM(合同海洋・海上気象技術委員会)を設置し、両機関の海洋観測・データ管理に関する調整を実施しています。

今年5月に韓国で開催された第4回JCOMM会合では、「2020年を目処に新しい海洋気候データシステム(MCDS)を構築する」という趣旨の勧告が採択されました。

MCDSは、世界気象機関(WMO)が1963年から続けている、篤志観測船(VOS)のデータから海上気候図を作成するための取組である「海洋気候概要計画(MCSS)」を近代化し、現在のIT技術や、最新の観測手法に対応させるための新しい枠組みです。

本会合は、JCOMMの下に設置された専門家会合であり、今回は特にMCDSの進め方について、関係する国際会議での了承を得るために必要な、関連文書の確認を中心に議論が行われました。

なお、わが国からは、ETMCの正式メンバーである気象庁および

MCDS タスクチームメンバーである JODC から各 1 名が参加しました。

2. 会合概要

MCDSは他のプロジェクトの成功例を踏まえ、特定の海域やデータ項目毎にデータを収集し最低限の品質管理を行う、「データ取得センター(DAC)」、DAC のデータを世界的にまとめる、「データ集積センター(GDAC)」、GDAC から提供されるデータセットから、特定のプロダクトを作成し、JCOMM に提供する「海上気象・海洋気候データセンター(CMOC)」の三種類のデータセンターによる階層構造を持つことが計画されています。

またMCDSでは、従来のVOSによって提供されてきたデータにとどまらず、気象・気候・海洋(海中も含む)の多様なデータがその対象になり得ます。

そのため、既存の気候学・海洋学のデータ管理の枠組み、例えば、国際海洋データ情報交換システム(IOC/IODE)や世界データシステム(ICSU/WDS)との整合性のある連携が行われることが重要な課題となっています。

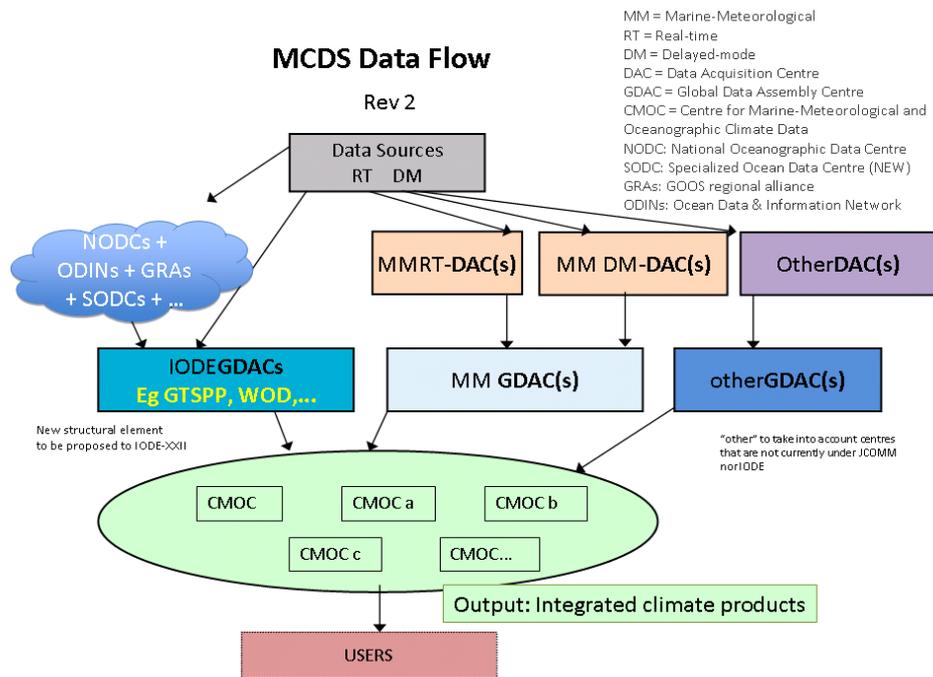
本会合では、MCDS の考え方や、既存のデータ管理の枠組みとの関係性について、基本的な事項から、参加者間での認識の共有を行う作業に時間の多くを費やしました。

特に、海洋学の分野で IODE が運用してきた、既存の国立海洋データセンター(NODC)のネットワークや関連するプロジェクトを、MCDS の枠組みの中でどのように位置づけるかという点と、CMOC の具体的な役割と活動状況の定期的な評価手法が大きな論点になりました。

議論の結果、IODE は全体として MCDS の海洋学データに関するGDACとしての機能を担う一方、個々のNODCはMCDSのDACである必要はないと整理されました。また、ARGO 計画等のJCOMMとは独立したプロジェクトについては、既存のデータ管理の枠組みをDACやGDACとして位置づけるものの、海洋気候のDACやGDACとは、指定要件等において、別扱いとすることが合意されました。

一方、CMOCについては、JCOMM4の勧告に盛り込まれた、中国国立海洋データ情報サービス(NMDIS)とドイツ気象局(DWD)に加え、米国NOAAの国際統合海洋気象データセット(ICOADS)も新たにCMOCの候補に加わることが合意され、これら3機関によって具体的なCMOC

の役割や評価手法等の詳細を詰めることになりました。



MCDS のデータフロー図

MCDS 以外の議論としては、通例の活動報告や VOS のコールサインのマスクング期間等について議論が行われました。また、通報式の変遷については、気象庁が NOAA の協力を得てデジタル化し、これまで NEAR-GOOS の下で資料を公開してきましたが、今回正式に WMO のホームページ (http://www.wmo.int/pages/prog/amp/mmop/preservation_en.html) で管理されることになりました。今後は WMO によって更新が行われるとのことです。

3. 今後の予定

今回の MCDS に関する議論については、JCOMM4 の勧告と共に、2013 年 3 月にメキシコで開催予定の IODE XXII に報告され、各国の NODC による議論が行われる見込みです。

(JODC 勢田 明大)